

相互通行のあるたより その1

7月9日（火）、一通のメールが支持的風土チームに届きました。「テロワール」第3・4号と感想募集を市立学校園に発信したのが7月5日（金）。大変忙しい時期にもかかわらず、時間を割いて書いてくださったこと、そしてチーム（市小研生徒指導部）として丁寧に実践を積み重ねられていることに大変感銘を受けました。A4判に書かれていた手紙の一部を以下に紹介します。

市立小学校のA教諭 ⇒ 学校支援課支持的風土チーム

「初めて感想を書かせていただきます。私は〇〇小学校の〇〇と申します。（中略）新潟市が生徒指導と授業の一体化を掲げていることから、市小研生徒指導部でも生徒指導的視点を生かして授業研究を行っています。（中略）授業研究から次の点について生徒指導部としての答えをだそうと模索しているところです。

- ① 生徒指導と授業の一体化とはどういう状態であるか？
- ② 担任の日常指導の視点は？
- ③ 授業者の役割とは？ など（中略）

学校支援課に支持的風土チームが発足したことは、市小研生徒指導部としても、追い風であると捉えています。実践を積み重ね、子どもたちのよりよい学びが実現できるように努力していきたいと思えます。（後略）

A教諭は、手紙の中で「傾聴・受容」「支援」「自律」は並列ではなく、「傾聴・受容」が一番重要ではないかということも書いておられます。「テロワール」第2号でも「自立に向けて、状況を見極めて適切に判断し、行動するなどの『自律』を体現していくには、仲間の『支援』が必要です。仲間を『支援』していくには、相手の考えや思いを『受容』していく必要があります。『受容』するためには、『傾聴』し、相手の考えや思いに共感することが欠かせません。」と書きました。「傾聴・受容」「支援」「自律」は、支持的風土に向かう道筋であり、そのスタートとしての「傾聴」が鍵であるとも言えます。もちろん「傾聴・受容」「支援」「自律」は相互に関連しつつスパイラルに高まっていきます。

「テロワール」感想等募集（随時募集）

夏休み中に、「テロワール」に関する感想や支持的風土の醸成に係る実践紹介を多く寄せていただきました。全校で取り組んでいるワークショップの概要や子どもが使っているワークシート、研究だより、学級だよりなどさまざまな資料を送っていただきました。どの資料からも子どもが豊かに学び合う様子や教職員一丸となって子どもの成長を支えていることがよく伝わってきます。大変貴重な資料を寄せていただきましたことに心より感謝申し上げます。紙面の都合上、全てを紹介することはできませんが今後テロワールで実践例や取組例を紹介していきます。今回寄せていただいた資料の中には、「これから全校体制で、取り組む内容」についての紹介もありました。実践後のものだけでなく、実践途中や実践前のものご紹介いただくとありがたいです。「テロワール」第4号では「感想等募集」をメールのみのご案内としましたが、この度「連絡便」や「封書」による募集も行うこととしました。是非、お気軽にお寄せください。

連絡便宛名：学校支援課支持的風土チーム

「メール」だけでなく
「連絡便」でも！

次号は、「子どもの言動の背後にある思いに寄り添う」を紹介します